

## 平成 29 年度新宿区外部評価委員会 第 8 回会議概要

### <開催日>

平成 30 年 3 月 19 日（月）

### <場所>

本庁舎 6 階 第 4 委員会室

### <出席者>

外部評価委員（9 名）

名和田是彦、山本卓、星卓志、荻野善昭、小菅知三、小林浩司、鶴巻祐子、野澤秀雄、  
藤岡聡子

事務局（5 名）

平井総合政策部長、宮端行政管理課長、池田主査、三枝主査、杉山主任

### <開会>

#### 【会長】

皆さん、おはようございます。

ただいまから平成29年度第8回新宿区外部評価委員会を開催します。

今回が平成29年度最後の外部評価委員会であり、今期の最後の委員会でもあります。2年間という短い期間ではありましたが、いろいろと充実した、私たち第3期の活動も締めくくりのときを迎えようとしています。

また、本日は最終回ということで、吉住区長、平井総合政策部長にもご出席いただいております。区長には「新宿区外部評価委員会2年間の活動を終えて」という報告書を、既にお渡しをしています。区長から御挨拶があるということですので、お願いします。

#### 【区長】

2年間にわたり、外部評価委員をお務めいただきまして、本当にありがとうございました。

区の委員会、審議会の中でも、恐らく最も手間のかかる会議体であり、本当に長時間にわたって多大なる労力をかけていただきました。本当に感謝を申し上げます。

外部評価委員会では、資料を読んでいただき、いろいろなヒアリングもしていただいた上で、外部評価をしていただいております。委員の皆様には大変なご負担をおかけしてしまっております。

活動報告書の「第3期委員の感想」を全て読ませていただきました。非常にプレッシャーをかけられたという趣旨の感想もあり、本当に申し訳なく思っています。

「第3期委員の感想」にもコメントを頂戴していますが、それぞれの出身母体の違いによっ

てその発言内容に特徴があったり、あるいはどうしても重点を置くところの違いがあったりしたかもしれません。その分、公募として申し込まれた区民委員の方の意見により、中和していただきながら、中庸な意見として最終的に外部評価をおまとめいただけたのではないかと考えています。

内部評価というのは、どうしても区の尺度で評価をしてしまいます。そこに対して一般の区民の方から見るとどういうふうな判断基準なのか、そのような新たなチェックが入り、そのことによって業務の改善に結び付いていくのだと思っています。ただ、外部評価意見がどのような形で具体的に業務の改善につながっていったのか、あるいは、予算に反映されたのかというところも今後の課題だと思っています。

平成30年度からは、新たに施策単位の評価をしていただくことになりました。新しい手法に基づいてどのような評価ができるかということが、これから私どもに問われていくことだと思います。外部評価委員の任期は終わりますが、お気づきの点などございましたら、ぜひ区民意見システム、あるいは、お手紙や電話でご意見をいただければと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

また、学識経験者の先生方におかれましては、前期でのご退任のお話がありましたが、無理にお引き止めをして、新しい評価手法の検証についてご尽力いただきました。改めて感謝申し上げます。今後も外部評価委員会は続いていきますので、大所高所からまたご指導賜ればありがたいと思います。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。

長期間にわたりまして本当にありがとうございました。

【会長】

ありがとうございました。

区長、総合政策部長は、公務のため、ここで退席をされます。

<区長、総合政策部長 退席>

【会長】

それでは、本日の議題に入りたいと思います。

次第1「内部評価と外部評価結果を踏まえた区の取組について」と、次第2「2年間の活動の総括」です。

はじめに、次第の1「内部評価と外部評価結果を踏まえた区の取組について」です。平成29年度の内部評価とそれに対する外部評価結果を踏まえて、区がどのような判断を行ったかということの確認を行います。

まず、事務局から、報告と説明をお願いします。

【事務局】

それでは、「平成29年度内部評価と外部評価結果を踏まえた区の取組について」の概要を説明します。この区の総合判断は、内部評価及び外部評価を実施した事業について、区として今後どのような方針で取り組んでいくか、あるいは、外部評価意見に対してどのように対応していくか、区としての今後の取組をまとめています。平成29年度は、平成30年度から始まる第一

次実行計画にもつながっていくという位置付けになっています。また、予算の編成にも反映させていく構成になっています。本日は、幾つかの事業を抜粋して説明します。

1つ目に、計画事業6「高齢者を地域で支えるしくみづくり」です。

この事業は、「目的（目標水準）の達成度」を「達成度が高い」としている内部評価に対し、外部評価は「適当でない」としています。「適当でない」と評価した理由として、「在宅医療・介護のネットワークの構築、『地域の活力』を生かした高齢者を支えるしくみづくり、高齢者等入居支援のそれぞれに対応する指標の達成度がいずれも40%前後であることから、「達成度が高い」とする内部評価は適当でない。」という意見を頂いています。

これを踏まえ、区の対応として、「在宅医療・介護のネットワークの構築」、「『地域の活力』を生かした高齢者を支えるしくみづくり」、「高齢者等入居支援」のそれぞれの事業について、「着実に推進していくとともに、事業の成果を適切に把握できるような指標を設定していきます。」としています。

また、関連する第一次実行計画の事業として、計画事業7「高齢者総合相談センターの機能の充実」、計画事業8「在宅医療・介護連携ネットワークの推進」、計画事業9「『地域の活力』を生かした高齢者を支えるしくみづくり」、計画事業46「高齢者や障害者等の住まい安定確保」を記載しています。第一次実行計画からは、それぞれ単独の計画事業として推進していきます。

2つ目に、計画事業21「特別な支援を必要とする児童・生徒への支援」です。

この事業は、「適切な目標設定」を「適切」、「効果的・効率的な視点」を「効果的・効率的」としている内部評価に対し、外部評価はそれぞれ「適当でない」としています。「適切な目標設定」を「適当でない」としている理由として、巡回指導・相談体制の充実については、「派遣先での支援内容、支援を必要とする児童・生徒や学校への効果など、より状況を把握できるような指標が必要ではないか。」、また、日本語サポート指導については、「より事業の効果が分かるように指導法、習熟度の判定等を含めて指標を検討してほしい。」という意見を頂いています。また、「効果的・効率的な視点」を「適当でない」としている理由として、「日本語サポート指導、児童・生徒の不登校対策とも指標の達成度が低い状況の中で、特別な支援を要する児童・生徒への理解や学校内の支援体制の整備が効果的・効率的に進んでいるとする内部評価には疑問が残る。」という意見を頂いています。

これらを踏まえ、「適切な目標設定」に対する区の対応として、「巡回指導・相談体制の充実については、発達障害等のある児童・制度の課題は様々であり、支援の内容やその効果の表れ方も一人ひとり異なるため、「より状況を把握できるような指標を設定することは困難であると考えます。」としていますが、日本語サポート指導については、「文部科学省が作成した日本語能力に係る対話型のアセスメント（DLA）の「話す」・「聴く」のテストに指標を変更することにより、児童・生徒の日本語習熟度をより正確に把握し、児童・生徒の能力に応じた指導方法の工夫・改善を図っていきます。」としています。また、「効果的・効率的な視点」に対する区の対応として、日本語サポート指導については、指標を変更し、児童・生徒の

実態をより正確に把握することで、「児童・生徒の日本語の能力に応じた効果的・効率的な指導を行っていきます。」とし、不登校対策については、「不登校対策委員会による取組や不登校対策マニュアルの活用等を進めるとともに、平成30年度に「教育課題モデル校」において専門人材のより効果的な活用等についての研究を行い、不登校出現率の低下や学校復帰率の増加を目指していきます。」としています。

さらに、平成30年度からは、中学校に特別支援教室を開設することにより、発達障害等のある児童・生徒への支援体制をより一層強化し、事業に取り組んでいきます。

3つ目に、計画事業39「生涯学習・地域人材交流ネットワークの活用」です。

この事業は、「サービスの負担と担い手」を「適切」、「効果的・効率的な視点」を「効果的・効率的」、「目的（目標水準）の達成度」を「達成度が高い」、「総合評価」を「計画どおり」としている内部評価に対し、外部評価はそれぞれ「適当でない」としています。「サービスの負担と担い手」を「適当でない」とした理由として、主な担い手が新宿未来創造財団のみでは業務の負担が重く、「区がより積極的に事業に関わるとともに、担い手を拡充していくことが必要である。」という意見を頂いています。また、「総合評価」を「適当でない」とした理由として、「事業の実施に関して、区が新宿未来創造財団との連携、協力の面で十分に機能しているとは言い難い。そのため、制度がうまく活用されておらず、各地域における効果も不明確である。」という意見を頂いています。

これらを踏まえ、区に対応として、「区は新宿未来創造財団と連携し、様々な講座や教室、イベントにおける制度の周知と登録者の活用、地域への情報提供を通じて、更なる登録者の増加と活動の機会の拡大を図っていきます。」としています。

4つ目に、計画事業71「新宿らしいみどりづくり」です。

この事業は、「適切な目標設定」を「適切」としている内部評価に対して、外部評価は「適当でない」としています。「適当でない」とした理由として、「屋上緑化・壁面緑化については助成件数、助成実施面積を目標として設定しているが、実績が低く、緑化助成が区全体のみどりの創出・緑被率の向上に及ぼす効果が小さいため、本事業の効果を測る観点からは改善が必要と考える。」という意見を頂いています。

これを踏まえ、区に対応として、「緑被率や緑視率を表現し得る有効な目標について検討していきますが、「屋上緑化・壁面緑化助成の件数及び面積」については、代わりとなる目標の設定まで、引き続き目標としていきます。」としています。また、「新宿区みどりの基本計画」では「緑視率」を新たに目標に加え、評価することとしています。

5つ目に、計画事業81「商店街の魅力づくりの推進」です。

この事業は、「効果的・効率的な視点」を「効果的・効率的」とした内部評価に対し、外部評価を「適当でない」としています。「適当でない」とした理由として、「情報誌の発行が個々の商店の魅力づくりに向けた支援につながるのか疑問である。また、内部評価に記載のある商店会等が抱える4つの課題に対し、特効薬になるとは思えない。」という意見を頂いています。

これを踏まえ、区の対応として、情報誌の発行は、商店街が行う事業に対する支援等の入り口のツールとして実施しているものであるという考えを示した上で、平成29年度からは、「大学と連携し、大学が持つ専門性や人的資源を活用した商店会等の課題解決に向けた取組も支援していきます。」としています。

以上、5つの事業について説明させていただきましたが、このほかにも、外部評価委員会の皆様から様々なご意見やご提案を頂いており、区の総合判断では、そのような意見も踏まえ、区として今後どのように取り組んでいくかという事業の方向性を示しています。個々の事業については、「平成29年度内部評価と外部評価結果を踏まえた区の取組について」をご確認いただければと思います。

#### 【会長】

ありがとうございました。

新宿区の行政評価の仕組みは、毎年度、区が内部評価を実施し、その内部評価を踏まえ外部評価委員会が外部評価を行い、内部評価と外部評価結果を踏まえて区の総合判断を示すという、念の入った評価のやり取りが行われています。しかしながら、我々が行った外部評価が、区にどのように受け止められてどのようにいかされたかがよく分からないという意見が聞こえてきます。個人的に考えたことは、区の総合判断において行政が使う言葉が、区民にとっていま一つ分かりにくいのではないかということです。区民と行政との対話を担っている重要なツールとしての区の総合判断の文章の作り方や言い回しの分かりにくさが、外部評価の結果がどのようにいかされたのか分からないという感想の原因ではないかという気がします。しかし、行政側としても、そのような言い方をするしかないという面も確かにあると思いますし、どのようにしたら伝わるのか、あるいは、どのようにしたら外部評価の意見をいかせるかということ而努力されていると思います。

区の総合判断の中身についての質疑でもかまいませんし、区の総合判断が、外部評価に対する回答として趣旨がきちんと伝わっているかということについて質疑でも良いかと思います。何か質問があればお願いします。

#### 【委員】

区の総合判断について、5つの事業を挙げていただき、丁寧な説明をいただいてよく分かりました。計画事業39「生涯学習・地域人材交流ネットワークの活用」について、「総合評価」も含めて4項目を「適当でない」という外部評価にしましたが、平成30年度からの第一次実行計画の中で外部評価を具体的に反映している箇所があるのか教えてください。

また、「新宿区外部評価委員会 2年間の活動を終えて」という報告書において、行政評価における課題と意見を述べています。これらの課題は、次期外部評価委員にどのように引き継がれるのか教えてください。

#### 【事務局】

1点目の計画事業39「生涯学習・地域人材交流ネットワークの活用」についてです。本事業は、第一次実行計画に向けた方向性を「経常事業化」としています。生涯学習指導者・支援者

バンク制度は、既に新宿未来創造財団においてシステム化されており、体制が整っているため、計画事業ではなく、経常事業として取り組んでいくこととなります。そのため、第一次実行計画の計画事業として位置付けていませんが、経常事業として、より積極的に区が関わりを持ち、新宿未来創造財団と連携して推進していく形となります。

計画事業は、短期間で集中的に重点的に取り組んでいく、時期と期間が定まっている事業という面もあります。それに対し、経常事業は、常日頃より経常的な事業として取り組んでいく事業です。1つの予算事業でもあり、経常事業化することが、事業がトーンダウンするということではありませんので、ご理解いただければと思います。

2点目の、次期外部評価委員への課題等の引継ぎについてです。活動報告書については、次期外部評価委員の皆様にも配付します。また、実際の外部評価に入る前には、オリエンテーションのような形で、外部評価の手法等について事務局から説明します。また、区の施策や事業の体系についても理解していただいた上で、外部評価ができるように、事前の説明等は丁寧に実施していきたいと思っています。次期外部評価委員会における検討事項についても、引き継ぎを行い、その上できちんと対応していきたいと考えています。

#### 【委員】

部会の中では2年目の方が、1年目のときよりも「適当でない」という評価を多く出した気がします。自分の中で要領がつかめてきたところもありますが、外部評価意見を更に注意して考えてほしいという所管課へのメッセージの意味合いも込めて、部会において意見をとても練ったと見ています。ただ、外部評価意見の文面だけを見て、所管課の方はどこまで理解しているのだろうかという疑問に思うところもあります。可能であれば、区の総合判断の冊子が出た時点で、もう一度、各部会と所管課とでやり取りや意見交換のような機会があれば、より納得できたのではないかと感じます。

#### 【委員】

各部会に分かれて、それぞれ担当の事業を外部評価しています。私は第2部会に所属していましたが、そこに第1部会や第3部会の方が委員を兼ねて外部評価を行った場合に、どのような結果となったのかということは非常に興味があります。また、計画事業39「生涯学習・地域人材交流ネットワークの活用」について、新宿未来創造財団の話が出ていましたが、例えば、自分がこの事業について評価をした際には、違う意見や評価をしたのではないかと考えます。先日の東京マラソンの際も新宿未来創造財団の方が現場で働いていましたが、職員の多くが、次回の新宿シティハーフマラソンにつなげるため、たくさんの方を見聞きしていたという印象を持ちました。このような現場をきちんと見て評価をした場合には、また違う結果になるのではないかと感じることもあります。

#### 【会長】

各部会での意見は、皆様からの意見を事務局がまとめて部会長が確認をした上で、外部評価実施結果報告書を作成していますが、行政に伝わりやすい言葉で述べられているのだろうと思います。他方で、行政が作成する文章は行政の言葉で書かれているので、区民としては何を言

っているのかいまひとつ分からないという場合もあるのではないかと思います。やはり、行政の立場として公平でなければならないなどの配慮もあり、結果として出てくる文章は何となくメリハリがなくて、どこが重要なのか分からないという場合もあります。そうすると、区民としては、自分たちが言った意見に対してしっかり正面から答えられていないという思いを持つこともあるのかなと思います。それぞれ立場の違うもの同士が、どのようにコミュニケーションをとるかということの難しさもある上で、どのくらい距離を縮めることができるかということが大事なのだと思います。その意味では、区の総合判断を材料に、改めて対話をするような機会を持つということは、もしかしたら有用なのではないかという感想を持ちました。

また、第2期外部評価委員会の最初の頃に、前年度の部会の意見と今回出そうとしている部会の意見の整合性について、随分指摘されたことがあります。同じ人間が構成している同じ部会が同じ事業について評価しているのに、前年度はAと言ったけれども、今年度はAではないと言っている。そうすると所管課としては非常に戸惑うということです。第3期外部評価委員会では、そのような注意を受けることが少なかったのですが、その点は大丈夫だったのでしょうか。

#### 【事務局】

その点に関しては、問題ありません。

区の総合判断については、外部評価意見と区の対応がかみ合っていないのではないかという印象を持たれる部分もあるかと思います。事務局としても、区の総合判断が外部評価意見を踏まえた回答となるように調整した上で、区としての考え方や取組等を示すようにしていますが、なかなか外部評価意見に沿えないケースもあるかと思います。事務局と所管課との調整では、過去の行政評価におけるやり取りや、これまでの内部評価、外部評価と矛盾していないかという視点も踏まえて行っています。その上で、区の総合判断を出しているので、区の総合判断について、改めて外部評価委員会でやり取りするというやり方が位置付けとしてふさわしいのかどうかという議論も出てくるのではないかと思います。

区の総合判断を示して、次年度以降、それを踏まえた上で内部評価や外部評価をしていきます。外部評価においても前年度の区の総合判断について意見を言う場合もあるかと思います。内部評価があり、外部評価があり、それらを踏まえて区の総合判断を行うという行政評価の仕組みを変えるということは、現在は想定していません。そのため、区の総合判断の位置付けは、区としての確固たるものだと捉えていただくことが適切ではないかと思います。ただ、区の総合判断に対してご意見があるということは十分あり得ると思いますので、次年度以降、そのような点も含めてきちんと評価をしていただき、区としてもきちんと説明、対応をしていきたいと考えています。

#### 【委員】

先程、委員から、外部評価委員の評価も含めた意思が所管課にきちんと伝わっていないのではないかという意見や、新宿未来創造財団の職員の現場での取組を見れば評価も違ってくるのではないかという意見がありました。私たち外部評価委員は、事業評価委員ではありません。

事業そのものを評価する委員であれば、何回もヒアリングや視察を行うことや、言葉が伝わっていないのではないかと、これを所管課と意見交換することは意義があると思います。しかし、外部評価委員として課せられていることは、内部評価シートを見て、その内部評価を区民の視点から評価するということです。非常に多くの事業がある中で、先程の意見のようなことを行うのは難しいのではないかと感じます。

計画事業39「生涯学習・地域人材交流ネットワークの活用」についても、新宿未来創造財団の職員は、区民と一体となって非常に素晴らしい活動していることは知っています。しかし、内部評価シートを見たときに「適当でない」という評価をせざるを得なかったわけです。新宿未来創造財団の職員が一生懸命仕事をしているかということの評価するわけではありません。あくまでも、内部評価シートを見て外部評価しなくてはいけないので、その辺の線引きが難しいと思います。外部評価委員は事業評価委員ではないということを原点に戻って考えなくてはいけないのではないかと思います。

**【委員】**

事業評価であれば、委員の役割としてもっと日々区の事業と向き合わなくてはいけないですよ。事業評価と内部評価を評価するという、その線引きが結構あいまいではないかと思いました。

**【委員】**

事業をきちんと実施しているのかどうかということは常にあるので、心情としては事業評価をしてしまっています。気にしないで良いと言われても無理ではないかと思っています。

**【委員】**

自分の生活に直接関わってくる事業もあるので、やはり事業そのものを見てしまいますし、そもそも事業の目的は何かというところから考えてしまいます。その点はずっと苦労したなと感じています。

**【委員】**

その辺りが外部評価委員の一番難しいところではないかと思っています。これは次の部会に引き継ぎたいと思います。

**【会長】**

区の総合判断について、更にご意見があればお願いします。

**【委員】**

各部が実施している事業の歴史、これまで部が事業を実施してきた中で、今年度はこのような取組をした、それについて評価を受けてこのように変わったというような部の事業の歴史は記録されているのでしょうか。区の職員は数年で異動してしまいます。実施している事業は変わらないにも関わらず、職員が代わってしまうことで、外部評価の意見でこのようにしてほしいという真意が伝わっていないのではないかと感じる場合があります。内部評価の内容も変わってしまうことも考えられますので、事業の歴史について、細かいところまできちんと見てほしい、伝えてほしいと思います。

### 【会長】

毎年度、内部評価をして外部評価をして区の総合判断を出すということとなっています。個人的な反省となるかもしれませんが、外部評価作業するときに、前年度の外部評価に対して区はどのように考えているかということ、毎回丹念に見てきたかというところではない気がします。外部評価の作業手順として、前年度の区の総合判断において外部評価意見に対して区がどのような判断をしていたかということ、気をしながら、当該年度の外部評価をするというだけでも、外部評価意見が事業にどのように反映されたかということについての違和感は減るのではないかと思います。

それと、「平成30年度予算の概要（案）」の中に行政評価への反映という項目がありますが、今回からなのでしょうか。

### 【事務局】

以前から行政評価との連動というような形で行政評価事業の一覧を記載していましたが、今回からは、行政評価とのつながりを特に強調して、より見やすく標記の仕方を変更しています。

### 【会長】

このような形でも工夫されていて、行政がどう受け止めたかということを考える材料はより充実しているということですね。

では、次第の2「2年間の活動の総括について」です。

先程の区長のお話にもありましたが、第3期外部評価委員会としての2年間の活動をまとめた報告書として、「新宿区外部評価委員会 2年間の活動を終えて」が出来上がりました。この報告書についてのご感想、また、ご自身の2年間の活動を振り返ってのご感想、あるいは外部評価についてのご意見など、締めくくりとして、お一人ずつ皆様からご発言をお願いしたいと思います。

### 【委員】

2年間、皆さん本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

感想は既にこの報告書に記させていただいているので、本日の会議を受けて感じたことを1つだけ話したいと思います。

一番強調したいことは、外部評価委員会を通じて所管課の方との生身のやり取りを行い、そのことに非常に醍醐味も感じましたし、すごく勉強して臨んだ反面、やはり形式的に受け答えする方もいれば、本当に熱意を持って話をされる方もいて、すごく人間らしいなということを感じたということです。

そのため、外部評価を行うに当たっても、所管課の方から、例えば、外部評価委員に聞いてみたいこと、外部評価委員会のいかし方がもう少しあるのではないかと意見などがあるのではないかと思います。ヒアリングでは、所管課の方が内部評価シートを読み上げて、外部評価員が一方的に質問していきます。しかし、所管課からも外部評価委員に対して質問があると思いますし、外部評価委員のいかし方のようなことも考えてもらっても良いのではないかと個人的には思っています。立場は違いますが、区をどうやって良くしていくかということにつ

いては同じであると思っています。ヒアリングでは発言が限られてしまっていますが、率直にいろいろなことを意見交換できるような場にもなれば良いのではないかと感じました。

委員に就任したときから今期のみと決めていたので、本日で終わりなのですが、2年間委員をやってみて、評価シートや資料などをいろいろと読み込んだと思います。おそらく来年には忘れていたことがたくさんあると思いますが、いかしてもらえるのであれば、是非もう一度事業を読み込んでほしいと思います。ある程度事業についてのベースがあればそのベースで議論ができますし、外部評価委員の中にもすごく知識のある方もいます。一人ひとりのキャラクターを見て声をかけるようなことがあっても、良いのではないかと思った次第です。少し話がそれてしまいましたが、2年間を通じて、少し固い雰囲気を感じていたので、フランクにする必要はないのですが、区民らしい視点のいかし方があるのではないかと思います。

#### 【会長】

外部評価委員会におけるやり取りは、議会におけるやり取りの仕方に非常に似ていますよね。そう考えるとすごく堅苦しいやり取りになっている気がします。委員会ですので、仕方がないとは思いますが、やはり形式が与える影響は大きいと思います。一方で、挙手をして指名されて話し始めるということで、身が引き締まることもあったのではないかと感じています。

#### 【委員】

1つの事業を1つの事業手法で実施している場合は評価もしやすいのですが、1つの事業の中に複数の枝事業がある場合、1つの枝事業は達成度が高いけれども、もう1つの枝事業は達成度が低いということがあります。その際に、それらをまとめて1つの事業として評価するのではなく、もう少し細かくそれぞれの枝事業についての判断ができれば良いのではないかと思います。平成30年度からは施策単位の評価になるので、より大きな括りの評価となるのか、より細かな事業まで見ることができるようになるのか分かりませんが、複数の枝事業で構成されている事業についての評価の仕方や評価シートの書き方をもう少し工夫した方が良いのではないかと思います。

また、事業の名称についても、何々の推進や何々の啓発という名称となっているのに、実際の事業内容は冊子やチラシの作成、配布のみという事業もあります。啓発や推進という表現については、壮大な言葉で全体をくくるよりも、もう少し細かく分かりやすい表現にした方が良いのではないかと思います。区民の視点で見たときに、受け止め方が違ってしまうということもあると思いますので、過大で壮大な目標を掲げることも良いとは思いますが、区民にとってもう少し分かりやすくしていただければと思います。

#### 【委員】

今回、外部評価委員をやってみて、1つの事業について、外部評価委員として事業を評価する立場と、区民として実際にそこの中に生きていて、区の事業に対して反対する立場、その両方の立場に立つことができました。例えば、区として積極的に推進していくという事業に対して、これは良いですねと外部評価をする。その一方で、実際にその事業を区が推進することにより事業者としての自分の立場が悪くなる。その両方の立場を経験しました。そこで感じたこ

とは、区の公の事業に対して、一区民として意見を言っても個人の意見はほとんど通らないということです。そのような点において、個人的に非常に不信感を持たざるを得ません。外部評価委員として意見を言えばもう少し自分の意見が通るのではないかと思いましたが、ほとんど通らない。このような実情を見ていると、これ以上区に関わっても仕方がないのではないかと感じてしまいます。

公の利益と個人の利益が相反したときにどうするのかという点について、私としては今のところ見えていません。最終的には、個人が引くしかないという現実が見えた気がしていて、何か無力感だけが残ったような気がします。

#### 【委員】

まず、2年間通して一番感じたことは、個別施策や計画事業の名称について随分戸惑ったということです。例えば、個別施策Ⅰ-6「未来を担う子どもたちの生きる力を伸ばす学校教育の充実」の中に、計画事業20「学校の教育力の向上」があります。区民の視点から見ると、学校教育における成績が上がるという見方をせざるを得ないと思います。ところが、ヒアリングを含めて事業内容を見ると、事業として実施していることは、学校教育を支援する体制の充実、学校教育をどのように応援するかという事業です。そのようなギャップが随分あるという感じがしており、もう少し事業名が、区民の視点で手に取るように分かるようになると、外部評価もやりやすくなってくるとは思いますが、事業名について、内容を伴う事業名にしていただくと、区民としてはありがたいと感じました。

また、外部評価委員としての心情的な感想になりますが、活動報告書の「第3期委員の感想」の中に、「外部評価委員は、「分かっていない人」として率直に評価することが、実は重要」という感想があり、大変感動しました。つまり、事業そのものを分かっていない立場で、分かっていない人が、分かっていない視点で評価をする方が、外部評価としては適切なのではないかと感じました。そのような点で、私は、分かっている事業を知ったかぶりをして評価をしたのではないかと感じています。分かっていない人の立場で、分かっていない尺度で評価するということが外部評価の神髄ではないかと思えます。この感想は、次期委員にも送りたいと強く感じました。

#### 【委員】

2年間大変お世話になり、ありがとうございました。

今回初めて外部評価委員会に参加させていただき、率直な感想として大変難しかったと思っています。私は、「新宿子育てメッセ実行委員会」から団体推薦委員として外部評価委員会に参加したので、当初は、子育て関係のことだけをやれば良いのではないかと余り難しく考えずに参加していたところもありました。実際、外部評価を行ってみると、子育てだけではなく、福祉や高齢者などこれまで余り知らなかった事業もたくさんあり、外部評価委員会に参加したことを機にそのような事業について知れたことはとても良い経験になりました。個人的には、やはり勉強不足をととても反省しています。自分自身が子育て中ということもあり、関心のあるところとないところの差が自分の中でも大きかったのではないかと感じています。

本当に分かっていない人の立場で外部評価をしたのですが、やはり、その分かっていない人にももう少し分かりやすい文章や表現が増えていくと評価しやすくなる部分もあるのではないかと感じました。

#### 【委員】

2年間の活動を振り返ってということですが、自分のスタンスとして、できる限り現場を見ていく姿勢をこれからも貫き通していきたいと思います。例えば、講演会やセミナーなどに自分のでき得る範囲で行って、自分の言葉でまとめたものを持ち帰って、整理してファイルしてということはこれからもやっていきたいと思います。

先日、薬王寺地域ささえあい館が新規に開館しました。ささえあい館で自分をどのようににかして活動するかという講座があり、自分の棚卸しをしたときに、これは大事なことだということを経験しました。やはり、ものの見方というか、実際に参加して考えてみて、初めて評価ができると思うので、1枚の紙で評価するというだけでは足りないのではないかと考えます。例えば、自分をいくつかの分野に分けて考えてみて、いろいろな経験から自分ができ上がっているということを改めて理解する、そういう姿勢が大事なのだと思います。

また、外部評価委員になり、いろいろな資格試験にチャレンジすることができたので、そのことは非常に感謝しています。日本健康マスター検定試験にもチャレンジできましたし、女性問題のスペシャリストになりたいという私のささやかな気持ちがありますので、若い人から年長者まで、男の目線でいろいろなところへどんどん出て行くような世の中になっていかないとダメだと思います。これまでインプットしてきたものをなるべくアウトプットできるようなそういう人間になっていければということ、外部評価委員会に参加して少しずつ理解できたような気がします。人としてあと何年生かされる命か分かりませんが、やってみたかったと悔やむよりも、やって良かったという人生でありたいと感じていますので、そのようなスタンスで、これからも区民活動や協議会などできる限りチャレンジしていきたいと思っています。

#### 【第1部会長】

私は平成29年度から外部評価委員会に参加したので、1年間でしたが、どうもありがとうございました。個人的にはとても興味深く得がたい体験をさせていただいたと思います。

2点申し上げたいと思います。

1点目ですが、外部評価委員会の場合でも何回か申し上げましたが、外部評価は条例上、内部評価を評価しているのではなく、施策や事業の達成度、効率性、成果等が評価対象であるということを確認しておきたいです。その理解が余り共有されていなかったため、外部評価を行う途中でも若干の混乱がありました。何に対して意見を言うかということに混乱があったのではないかとすることは、私も含めて反省する点だと思います。

2点目です。外部評価の指摘に対して事業を改善するということは、行政評価制度において重要なことではありますが、区民に対していろいろな事業が、いかに公共の福祉にかなっているのか、いかに合理的で効果的なのかということを行政が説明する、そのことをたくましくするという効果が非常に重要ではないかと思っています。その意味で言うと、行政評価の報告書を読

んでも、何が議論されているのかおよそ分かりません。例えば、区の総合判断を見ても、内部評価や目標設定などが記載されていないので、何が書いてあるのか、これだけを読んでも誰も分からないと思います。先程、文章の話も出ていましたが、これらの報告書を対外的に公表したときに、このような論点があり、このような指摘があり、それらに対して区はこう考えているということが、中学生が読んでも分かる程度の分かりやすさや説明力を持つということが必要なのではないかと思います。このことは、今後の課題として申し上げておきたいと思います。

#### 【副会長】

外部評価委員会での活動を通じて得た知見を、この委員会を離れても役立てる、発展的に活用されていく機会になるような委員会であったと改めて思います。その意味で、区にとっての外部評価委員会の意味というのは、行政評価にとどまらない面もあるということを実感する機会になり、大変刺激的であったという感想を持っています。

また、外部評価のまとめ方について、若干反省することがあります。区の総合判断を拝見しましたが、外部評価として、どの項目にどのような意見を書くのかということは、部会でも検討しましたし、部会長としてまとめるときも検討する事柄ではありましたが、各項目の書き方として、事業のしかるべき実効性を上げているということは評価する、という書き方は、逆にメッセージ性を薄めてしまったのではないかと思います。このことは、区が外部評価意見をきちんと受け止めて、どのように対応するのかということが分からないということに関わるのかもしれない。少し意地悪な考え方としては、外部評価委員会の意見として事業をきちんと実施することは当然というスタンスで統一し、その上で、批判点や要改善点に絞り評価を書くという書き方をすれば、より所管課にダイレクトに伝わったのではないかと感じます。そのような意見の書き方についても、少し反省するところがあったのではないかと思います。

部会において委員から出た強い意見については、第2部会は「その他意見」に記載しましたが、区の総合判断では「その他意見」はあまり取り上げられていません。部会の熱量やアイデア的な重要な強い主張は「その他意見」に盛り込んだのに、その点が「総合判断」に出てこない。そうすると、外部評価委員から見ると本当に届いているのかという懸念が実感としてあらわれてくるのではないかと思います。区においてもそのような点にご留意いただくとともに、外部評価委員会としてできることがあるならば、例えば、強いメッセージがある際には、ほかの意見は簡単に記載して、「その他意見」にほとんどの主張を盛り込むなどの形にする。そのようにして所管課に実感を伴う形で伝えるというやり方もあったのではないかと思います。仕組みの問題とともに、運用レベルでも、区民の皆さんや外部評価委員の皆さんの意見の外部評価への盛り込み方に工夫ができると感じました。この点は、できれば次期外部評価委員会にも何らかの形で引き継いでいただければと思います。

#### 【会長】

ありがとうございました。

いろいろご意見いただきました。今の一連の皆様の意見は、事務局や区の所管課で受け止めていただくとともに、今後の教養的な材料になるのではないかと思います。

事業名のつけ方についての議論が出ていましたが、事業名に対して実際に実施している内容が比較的小規模だった場合に当惑するということがよくあります。この点に関しては、いたし方ないところもあり、総合計画は理念を強く打ち出して、区民とそれを共有して前に進めていくということがあるので、事業名はどうしても壮大なものとならざるを得ないということもあると思います。しかし、評価という目で見ると当惑するところがあるという論点が、本日改めて複数の方から出てきており、今後の課題になったと思います。

最後に私からの挨拶になりますが、通算すると11年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。新宿区民の方の優れた区民性と、新宿区の職員の水準の高さと、非常に満喫させていただいたという気がしています。

私はもともと評価ということが本当に嫌だと思っています。前を見ていたいタイプなので後ろを振り返ることが嫌なのですが、やはりいろいろな仕事をしていると、評価ということをやらざるを得ないということにこの10年間で随分気づかされて、嫌いだと言っていられないと痛感しています。

そう考えると、新宿区の行政評価は、細かい緻密な評価をするという作業でしたので、非常に役に立っています。アウトカムとアウトプットの区別から始まり、いろいろな発想や手法を学ばせていただきました。恐らく、このようにしっかりと評価をした上で前に進んでいくことは、ある程度合理化した社会においては避けられないことで、今後どのような分野においてもそのように進んでいくのだと思います。新宿区に暮らしている方、新宿区で仕事されている方、みんな同じようにいろいろな分野で評価をしながら前に進んでいくことをやっていくのだと思います。そう考えると、外部評価委員会という場で行政も区民も評価の文化というものに触れて、その重要性を共有していくことは非常に素晴らしいことだと思いますし、10年以上関わることができたことを非常に光栄に思っています。今後もこの評価の文化が深化していけますように祈念します。どうもありがとうございました。

では、本日はこれで閉会とします。

皆様、2年間大変お疲れさまでした。

<閉会>